

# 情報コミュニケーション学会 第16回全国大会プログラム



これからの情報  
Future Information, Communication And Society  
コミュニケーション

第16回 情報コミュニケーション学会 **全国大会**

2019年2月23<sup>土</sup>日▶24<sup>日</sup>

[大会会場] 明治大学 駿河台キャンパス  
リバティタワー

[テーマ] これからの情報コミュニケーション  
[参加費] 1,000円 (本学会学生会員無料・学会員以外も発表可)  
※大会論文誌 2,500円 懇親会3,000円  
(事前申込の場合の金額です。購入や参加は任意です)

[主催] 情報コミュニケーション学会  
[共催] 次世代大学教育研究会  
[後援] 明治大学サービス創新研究所



情報コミュニケーション学会  
第16回全国大会プログラム  
「これからの情報コミュニケーション」

2019年2月23日（土）・24日（日）  
明治大学 駿河台キャンパスリバティタワー

主催 情報コミュニケーション学会  
共催 次世代大学教育研究会  
後援 明治大学サービス創新研究所

## 第 16 回情報コミュニケーション学会全国大会の開催にあたって

第 16 回全国大会実行委員会 委員長  
明治大学法学部 阪井 和男

情報コミュニケーション学会の全国大会の会場校を代表してご挨拶申し上げます。今回の第 16 回大会が明治大学で開催されることはまことに光栄なことです。

思い起こせば、かねて私立大学情報教育協会の委員会で存じ上げていた山本恒先生たちから情報コミュニケーション学の確立にたいする熱い思いをお伺いしたのが 2002 年ころでしょうか。その後、設立準備会を設置し西之園晴夫先生（特定非営利活動法人学習開発研究所代表理事、元仏教大学教授）たちのご協力を得て、学会のコンセプトが固まりました。その目的は、情報通信ネットワークやコンピュータなどにより高度に情報化された社会におけるコミュニケーションについて学際的に研究することです。ここで、社会というキーワードが入っていることにご注目ください。情報技術に焦点を絞ったのではなく、社会にも焦点を当てていることを英字名称に込めたのです。こうして、情報コミュニケーション学会（Japan Association for Communication, Information and Society）が 2004 年（平成 16 年）2 月 28 日に設立されました。第 1 回全国大会（2004 年 2 月 28 日～29 日）が園田学園女子大学で開催された初日のことです。

この間、私は学会会長を 3 期（3 期目は特例措置）、続けて副会長を 1 期、そして再度の会長就任と、立ち上げの 10 年間にわたって会長・副会長を担ってきました。この間、みなさんの協力を得て、編集委員会の立ち上げ、日本学術会議協力学術研究団体の認定など、学会としての体制強化が進められたのです。

さて、今回は 2010 年以來の明治大学での開催です。前回の第 15 回全国大会は関西地区の大手前大学でしたので、今回は会場を関東地区に移して久しぶりの明治大学での開催です。これまで明治大学での全国大会の開催は、(1) 第 2 回（2005 年 3 月 30 日～31 日、リバティタワー）、(2) 第 5 回（2008 年 3 月 22 日～23 日、アカデミーコモン）、(3) 第 7 回（2010 年 2 月 27 日～28 日、紫紺館）——と過去に 3 回ありました。

今回の会場と情報交換会ともリバティタワーで開催します。特に、情報交換会の会場はリバティタワー最上階の 23 階にある岸本辰雄記念ホールを宮城浩蔵ホールと併せて使用します。人気の場所ですのでなかなか予約が取れないのですが今回は幸運でした。見晴らしの良い場所ですし、天井の高いきれいなホールです。今大会の内容は質量ともに豊富で多くの多様性のある研究発表が目白押しです。大会、情報交換会とも大いにお楽しみください。

以上

## 第 16 回情報コミュニケーション学会全国大会・ 学会 15 周年記念行事の開催にあたりまして

情報コミュニケーション学会会長  
畿央大学 西端律子

情報コミュニケーション学会の全国大会及び学会 15 周年記念行事の開催にあたりまして、会長としてご挨拶申し上げます。

当学会は、平成 16 年 2 月に設立され、今年で 15 周年となります。技術の進歩によるパソコン等の高機能低価格化は、一般家庭や学校にコンピュータやネットワークの普及をもたらせました。また、スマートフォンが登場し、手軽に情報収集・発信やコミュニケーションなどができる時代となりました。このような流れの中で、当学会は、「情報」「コミュニケーション」「社会」に焦点をあて、研究活動を進めてまいりました。

さて、毎年 4 月になりますと、勤務先の大学には新入生が入学し、「大学での学びとは」などのオリエンテーションをする機会があります。たくさんの授業科目があるなかから、自ら必要な授業を選択する、という今までとは全く違う環境におかれます。その中で、よく質問されることの一つに「『〇〇△△学』と『△△〇〇学』はどうちがうのですか？」があります。例えば「教育社会学」と「社会教育学」、「教育工学」と「工学教育」などです。

小学校算数には、かける数とかけられる数があり、順序が大切という話もありますが、学問領域において、順序はとても大切です。「〇〇△△学」の場合、前者の「〇〇」が目的や対象を、後者の「△△」が方法や見方を表すからです。先の例の「教育社会学」は、教育を社会学的な見方で研究する学問分野、「社会教育学」は、社会を教育学的な見方で研究する学問領域と言えます。

当学会の名称ともなっている「情報」「コミュニケーション」「社会」は、それぞれが目的や対象、方法や見方にもなる大きな学問分野です。「情報×コミュニケーション」「情報×社会」「コミュニケーション×情報」「コミュニケーション×社会」「社会×情報」「社会×コミュニケーション」と、一つの学会でさまざまな学問領域を取り扱っていることもご理解いただけるかと存じます。全国大会は、こうした学問領域の研究成果が発表される年に一度の機会になります。ぜひ、当学会ならではの「学問領域の広がり」を意識しながら、ご参加いただければ幸いです。

以上

第16回情報コミュニケーション学会全国大会 スケジュール  
第1日目 2019年2月23日(土)

時刻	イベント		
12:30-13:00	受付 明治大学駿河台キャンパスリバティタワー13F		
13:00-13:10	オープニングセッション 会場A (1133教室)		
13:10-14:10	基調講演 会場A (1133教室) 「中国最新 ICT サービス事情から考える情報リテラシー」 青森公立大学 経営経済学部 地域みらい学科 准教授 木暮 祐一 氏		
14:10-14:20	企業展示ご説明		
14:20-15:50	一般研究発表 セッション1		
	会場A (1133教室)	会場B (1134教室)	会場C (1136教室)
	セッションA1 災害情報 座長：阿部一晴 (京都光華女子大学)	セッションB1 データ活用 座長：後藤 晶 (多摩大学)	セッションC1 高等教育 座長：尾崎拓郎 (大阪教育大学)
15:50-16:20	休憩 (1135教室に休憩コーナーがあります)		
16:20-17:20	特別講演 会場A (1133教室) 「サイバーセキュリティ ～これからの情報コミュニケーションに不可欠な技術と制度～」 工学博士 ファイア・アイ株式会社最高技術責任者 伊東 寛 氏		
17:45-19:30	情報交換会／15周年記念行事 リバティタワー23F 岸本辰雄ホール		

1135  
教室  
で  
企  
業  
展  
示

講演・セッションの会場はすべて明治大学駿河台キャンパスリバティタワー13Fです。  
 企業展示および休憩コーナーは1135教室です。  
 情報交換会は、リバティタワー23F 岸本辰雄ホールにて行われます。

第16回情報コミュニケーション学会全国大会 スケジュール  
第2日目 2019年2月24日(日)

時刻	イベント		
9:30-10:00	受付 明治大学駿河台キャンパスリバティタワー13F		
10:00-11:30	一般研究発表 セッション2		
	会場 A (1133 教室) セッション A2 ICT 座長：阪井和男 (明治大学)	会場 B (1134 教室) セッション B2 芸術と教育 座長：杉田このみ (千葉商科大学)	会場 C (1136 教室) セッション C2 初等・中等教育 座長：永井克昇 (千葉商科大学)
11:30-12:30	昼休み (12:30 までにお戻り下さい。表彰式がございます)		
12:30-13:10	大会優秀研究表彰式/情報コミュニケーション学会 総会 (会場 A)		
13:10-14:40	一般研究発表 セッション3		
	会場 A (1133 教室) セッション A3 メディアと教育 座長：庄司一也 (帝京平成大学)	会場 B (1134 教室) セッション B3 メディア研究 座長：村井明日香 (桜美林大学)	会場 C (1136 教室) セッション C3 プログラミング教育 座長：高見澤秀幸 (一橋大学)
14:40-15:00	休憩		
15:00-16:30	一般研究発表 セッション4		
	会場 A (1133 教室) セッション A4 社会 コミュニケーション 座長：友野典男 (明治大学)	会場 B (1134 教室) セッション B4 コミュニケーション 座長：寺尾 敦 (青山学院大学)	会場 C (1136 教室) セッション C4 次世代大学教育 研究会 座長：阪井和男 (明治大学)
16:30-16:40	クロージングセッション会場 A (1133 教室) 閉会挨拶		

1135  
教室  
で  
企  
業  
展  
示

セッションの会場はすべて明治大学駿河台キャンパスにあるリバティタワー13Fです。  
企業展示および休憩コーナーは1135教室です。

## 基調講演

2019年2月23日（土）13:10 - 14:10 会場 A（1133 教室）

### 中国最新 ICT サービス事情から考える 情報リテラシー

青森公立大学 経営経済学部 地域みらい学科 准教授

木暮 祐一 氏

#### <講演概要>

利用率 9 割を超すという電子決済、IoT による個人情報収集とプロファイリングなど、急速に ICT が普及進展した中国の最新事情についてご紹介するとともに、こうした個人情報利活用が当たり前となった時代における ICT サービスとの向き合い方を考えます。

#### <小暮 祐一 氏 略歴>

1967 年、東京都生まれ。'80 年代後半から携帯電話業界動向をウォッチし、2000 年に（株）アスキーにて携帯電話情報サイトを立ち上げ同 Web 編集長。2002 年～2004 年、携帯コンテンツ開発の（株）ケイ・ラボラトリー（現、KLab（株））で広報宣伝部マネージャー。2007 年、「携帯電話の遠隔医療応用に関する研究」に携わり徳島大学大学院工学研究科を修了、博士（工学）。スマートフォンの医療健康分野への応用や、地域社会での活用に関する研究、メディアの情報化に関わる研究、情報モラル、情報セキュリティに関わる実践活動などを行う。2013 年より青森公立大学准教授。1000 台を超えるケータイのコレクションも保有している。





# 特別講演

2019年2月23日（土）16:20 - 17:20 会場 A（1133 教室）

## サイバーセキュリティ

～これからの情報コミュニケーションに不可欠な技術と制度～

工学博士 ファイア・アイ株式会社最高技術責任者

伊東 寛 氏

### <講演概要>

最近、サイバー犯罪に関する報道をよく耳にするようになってきているが、そもそも、それが何であり私たちにどう関わるか、いま一つピンときていない人が多いのではないだろうか。講演では、サイバーとはそもそも何か、また、特徴的なサイバー攻撃の説明をすることで、今後、私たちが考えていかなければならないセキュリティのポイントについて説明します。

### <伊東 寛 氏 略歴>

慶応義塾大学大学院修士課程修了後、80年に陸上自衛隊に入隊し、技術および情報系の指揮官、幕僚等を歴任。陸自初のサイバー戦部隊であるシステム防護隊の初代隊長も務めた。以降、サイバー戦争の第一人者として活躍中。『第5の戦場サイバー戦の脅威』など多くの著書も。現在、最高技術責任者を務めるファイア・アイ株式会社は、インテリジェンス主導型のセキュリティ企業で、国家レベルでの脅威からの軽減、防御等を担っている。





# 一般研究発表

## 2月23日(土) 14:20-15:50 一般研究発表 セッション1

### A1 災害情報

2月23日(土) 14:20 - 15:50 会場 A (1133 教室)

座長：阿部一晴 (京都光華女子大学)

- A1-1 南海トラフ地震への自衛隊の災害派遣計画—東日本大震災の教訓を踏まえて  
○北村知史 (同志社大学大学院)
- A1-2 平成 30 年西日本豪雨被災地の現状と課題—周南市小成川地区の事例から—  
○羽田 司 (徳山大学)  
○中嶋克成 (徳山大学)  
寺田篤史 (徳山大学)
- A1-3 地域ゼミにおける「サービスマーケティング」としての被災地支援  
—小成川集落の災害復興ボランティア実践—  
○中嶋克成 (徳山大学)  
羽田 司 (徳山大学)  
寺田篤史 (徳山大学)  
庄司一也 (帝京平成大学)

### B1 データ活用

2月23日(土) 14:20 - 15:50 会場 B (1134 教室)

座長：後藤 晶 (多摩大学)

- B1-1 道府県のオープンデータ推進に関わる政策コミュニケーション  
○本田正美 (東京工業大学)  
中野邦彦 (島根大学)
- B1-2 集合知集約に関するシニア世代向けアイデアソンからの実証試み  
○亀井省吾 (産業技術大学院大学)  
板倉宏昭 (産業技術大学院大学)
- B1-3 データ利活用に向けた社会データの共同利用に関する取り組み  
○田中康裕 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、  
データサイエンス共同利用基盤施設、社会データ構造化センター)

- B1-4 ノンコーディングオープンソース AI ツール H2O 3 の国内での普及を目指した  
ユーザコミュニティ JHC: Japan H2O Community について  
○岩井憲一（滋賀大学）

## C1 高等教育

2月23日（土） 14:20 - 15:50 会場C（1136 教室）

座長：尾崎拓郎（大阪教育大学）

- C1-1 大学生による映像制作の技法の活用に関する評価方法の検討  
○村井明日香（東北大学大学院）  
堀田龍也（東北大学）
- C1-2 大学初年次キャリア教育における技術者養成に向けた対話スキルトレーニングの  
デザイン  
○齊尾恭子（大阪電気通信大学教育開発推進センター）  
不破信勝（大阪電気通信大学就職部）  
伊藤義道（大阪電気通信大学工学部電気電子工学科）  
中田亮生（大阪電気通信大学工学部環境科学科）  
竹内和広（大阪電気通信大学情報通信工学部情報工学科）  
柴垣佳明（大阪電気通信大学情報通信工学部通信工学科）  
上善恒雄（大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科）  
新川拓也（大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科）  
田中孝憲（大阪電気通信大学就職部）  
森 幸治（大阪電気通信大学副学長、同工学部機械工学科）
- C1-3 大学生は SNS をどう捉えているのか—Twitter に関するアンケート結果からの考察  
○越智 徹（大阪工業大学）
- C1-4 一般情報教育の知識体系（GEBOK）の策定とその後の活動  
○上繁義史（長崎大学）

## 2月24日（日）10:00-11:30 一般研究発表 セッション2

### A2 ICT

2月24日（日） 10:00 - 11:30 会場 A（1133 教室）

座長：阪井和男（明治大学）

A2-1 医療現場での応用内容に基づく臓器形状モデリング手法

張 贇（大阪電気通信大学総合情報学研究科）

蔡 明煒（大阪電気通信大学総合情報学研究科）

佐藤礼華（大阪電気通信大学）

A2-2 医療知識を楽しく勉強するためのアプリ応用

楊 茜（大阪電気通信大学大学院）

佐藤礼華（大阪電気通信大学大学院）

A2-3 ラーニングレーダーチャート（LRC）によるアクティブ・ラーニング型授業の学習成果の可視化の試み

—医療スポーツ系クラスにおけるコンピュータ教育を事例として—

○庄司一也（帝京平成大学）

A2-4 SpreadsheetML カスタムプロパティを活用した表計算自習支援環境の検討

○戀河内敦（宇部工業高等専門学校）

二木映子（宇部工業高等専門学校）

丹羽量久（長崎大学）

### B2 芸術と教育

2月24日（日） 10:00 - 11:30 会場 B（1134 教室）

座長：杉田このみ（千葉商科大学）

B2-1 芸術表現の教授法開発の一考察

○下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

上條雅雄（明治大学サービス創新研究所）

有賀三夏（東北芸術工科大学）

- B2-2 芸術思考を用いた複合型学習モデルの構築  
◎高橋洋充（東北芸術工科大学）  
有賀三夏（東北芸術工科大学）  
下郡啓夫（函館工業高等専門学校）
- B2-3 芸術思考型バーチャル YouTuber の実践  
森川優輝（東北芸術工科大学）  
◎織笠直人（東北芸術工科大学）  
有賀三夏（東北芸術工科大学）  
下郡啓夫（函館工業高等専門学校）
- B2-4 主体的な学びを支援する実践報告の活用における提案  
○橋本はる美（摂南大学）  
堀井千夏（摂南大学）  
栢木紀哉（摂南大学）

## C2 初等・中等教育

2月24日（日） 10:00 - 11:30 会場C（1136 教室）

座長：永井克昇（千葉商科大学）

- C2-1 教育における習慣化の研究—教師主体と学習者主体の授業—  
○清水洋一（東京都公立小学校）
- C2-2 初等中等教育のテストにおける CBT の利用  
○劉 東岳（学研教育総合研究所）
- C2-3 他教科の教員同士がともに学ぶ授業研究に関する研修の実践  
○高橋朋子（近畿大学）
- C2-4 初等中等教育の共通カリキュラムに ID を付与して管理する学習要素リスト  
○池田智志（株式会社学研プラス）  
○石坂芳実（株式会社夢デザイン総合研究所）  
稲垣 健（ラインズ株式会社）  
小形日出夫（一般社団法人日本教育情報化振興会）  
川口暁士（学校図書株式会社）  
○清遠和弘（東京書籍株式会社）  
関 真之（教育出版株式会社）

## 2月24日（日）13:10-14:40 一般研究発表 セッション3

### A3 メディアと教育

2月24日（日） 13:10 - 14:40 会場 A（1133 教室）

座長：庄司一也（帝京平成大学）

- A3-1 主体的学習者を育む協同学習設計と実践  
東郷多津（京都ノートルダム女子大学）
- A3-2 教員間の協学習に ABD（Active Book Dialogue®）と Zoom を導入した実践例からの考察  
～教員の「主体的・対話的で深い学び」を促すコミュニケーション～  
杉原麻美（淑徳大学）
- A3-3 介入実験ツールとしてのクラウドソーシングの有効性  
ーランダム化比較対照試験による情報リテラシー教材の効果検証を事例として  
○山本輝太郎（明治大学情報コミュニケーション研究科）  
石川幹人（明治大学情報コミュニケーション学部）
- A3-4 介入としての側面に焦点化したプレゼンテーションの教育実践  
○大西 洋（京都市立西京高校）

### B3 メディア研究

2月24日（日） 13:10 - 14:40 会場 B（1134 教室）

座長：村井明日香（桜美林大学）

- B3-1 学生におけるデジタル機器の依存度とその認識  
○藤田智子（玉川大学）  
小田井圭（国士館大学）  
安達和年（国士館大学）
- B3-2 社会的環境としてのVR  
○岩瀬祥瑚（明治大学大学院情報コミュニケーション研究科）
- B3-3 インターネット上のアンパンマンお面不審者情報に関する研究  
○保科俊（東洋大学大学院社会学研究科）



- B3-4 僕らの歴史。－ファミコンから見る思い出の継承－  
◎笠原公生（千葉商科大学政策情報学部）  
杉田このみ（千葉商科大学）

## C3 プログラミング教育

2月24日（日） 13:10 - 14:40 会場C（1136教室）

座長：高見澤秀幸（一橋大学）

- C3-1 思考力の芽生えとプログラミング  
井狩文美（畿央大学大学院教育学研究科）
- C3-2 プログラミング的思考における各思考スキルの体系化の試み  
－小学校学習指導要領改訂において－  
○納庄 聡（甲子園学院高等学校）  
若杉祥太（芦屋大学）  
中谷有里（芦屋大学大学院）  
藤本光司（芦屋大学）
- C3-3 プログラミング教育における自己調整学習モデルの開発と取り組み  
○中谷有里（芦屋大学大学院）  
若杉祥太（芦屋大学）  
納庄 聡（甲子園学院高等学校）  
藤本光司（芦屋大学）
- C3-4 可搬型端末を用いた大学のプログラミング教育の検討  
－スマートフォンによるプログラミングの導入－  
○岩崎日出夫（東海大学）

## 2月24日（日）15:00-16:30 一般研究発表 セッション4

### A4 社会コミュニケーション

2月24日（日） 15:00 - 16:30 会場 A（1133 教室）

座長：友野典男（明治大学）

- A4-1 福島県産品に対する不合理的消費者の特徴  
◎安齋水菜（福島大学）  
南部和香（青山学院大学）
- A4-2 労働者の仕事の満足度に影響を及ぼす要因  
○脇みどり（明治大学大学院）
- A4-3 利益は利他行動を促進するかーウィンドフォールゲームによる実験的アプローチ  
○後藤晶（多摩大学）

### B4 コミュニケーション

2月24日（日） 15:00 - 16:30 会場 B（1134 教室）

座長：寺尾 敦（青山学院大学）

- B4-1 「知」としての「悪魔」  
ー横光利一『悪魔』から考える文学・教育・コミュニケーションー  
○大久保美花（明治大学大学院情報コミュニケーション研究科）
- B4-2 政策当局者と市場とのコミュニケーションの所在  
○本田正美（東京工業大学）
- B4-3 複雑な情報環境下のネットワーク・ダイナミクス有効性に関する一考察  
ー被災地におけるデジタル回覧板アプリ開発プロセスを通じてー  
○亀井省吾（産業技術大学院大学）  
竹井成和（産業技術大学院大学）  
板倉宏昭（産業技術大学院大学）

## C4 次世代大学教育研究会

2月24日(日) 15:00 - 16:30 会場C (1136 教室)

座長：阪井和男 (明治大学)

次世代教育研究会は大学教育のあり方を考える研究会で、毎月1回開催しています。今回は情報コミュニケーション学会の皆さまにもご参加いただければと思います、全国大会の1セッションとして開催します。

C4-1 青少年の受験期における身体活動量変化の実態と支援モデル提案

○内藤隆 (明治大学サービス創新研究所)

C4-2 中学校 ICT 活用アクティブラーニングの効果

○上運天美都子 (沖縄アミークスインターナショナルスクール)

C4-3 理工系私大のカリキュラム開発を支える学内組織づくりとマネジメント実践

～技術者養成に向けた初年次キャリア教育開発事例より～

○齊尾恭子 (大阪電気通信大学教育開発推進センター)

## 情報コミュニケーション学会 15周年を記念して

情報コミュニケーション学会理事  
15周年記念行事委員長 高見澤 秀幸

このたび、情報コミュニケーション学会は2004年2月28日の設立から数えて創立15周年を迎えることができました。学会を創設し育てて頂いた学会員の皆さま、諸先輩の方々、歴代会長、副会長、監事、評議員の皆さま、そして事務局や論文誌制作にご尽力いただいた皆さまに深くお礼を申し上げます。

10周年の時にも申し上げましたが、インターネットやソーシャルネットワークの発達した今日において、リアルな「学会」が存在する意義は何でしょうか。私はその重要な意義のひとつに「出会い」があると思います。AmazonやGoogleをお使いの方はご存知と思いますが、これらのサービスはそれまでの行動履歴等から次にユーザーが欲する情報をリコメンデーション機能によって推奨してきます。しかしながら、「この先生と考え方が近い」とか「ジャンルは違うけどこの先生とは協業できそうだ」というような情報は、なかなか検索で得ることは難しいでしょう。残念ながら学会10周年から15周年に至る5年間に大きな進歩は無かったように思います。だからこそ、一堂に会して意見を交換する学会は、現在もこれからも学術的な進歩になくてはならないものになり続けるのでしょう。

学会の活動は、自動的に継続されるものではなく、多くの人の厚意で成り立っています。今回の全国大会でご発表される皆さまはもちろんのこと、ご協賛いただいております企業の皆さま、座長を引き受けて下さった皆さま、受付を行って下さった皆さまなど数えきれない人たちの力でこのような全国大会を実施することができ、学会としても15周年を迎えるに至りました。広い意味での情報教育やプログラミング、協業による学習など、この先の5年10年もまだまだ新しいテーマが目白押しです。多くの人が集いコミュニケーションする場を提供する役割を担っていける情報コミュニケーション学会でありたいと思いますので、より一層のご協力をお願い申し上げます。

## あつという間に 15 周年になりました

情報コミュニケーション学会顧問

ICT 活用教育研究所 山本恒

あつという間というのは、私が歳を取ってしまっただけで時間の流れが加速してしまっているからでしょう。実際は 15 年も、それも輪を広げながら続いてこられたのは多くの皆様の地道な努力があったからで、そうでなかったらとっくに名前だけの会になっていたり、消滅していたりしていたと思います。本当に誇らしく嬉しく、そして感謝しています。

この学会が誕生した経緯は、創立 10 周年記念誌に詳細に述べさせていただいていますが、私が勤務していた園田学園女子大学で、1999 年に「国際文化学部言語コミュニケーション学科情報コミュニケーション専攻」という専攻が誕生しました。この年は 2003 年から高等学校で新設される教科情報にむけて教員の教職課程を設置できる初年度でもありました。その後 2002 年には学科になりましたが、新しい「情報コミュニケーション」という言葉がなかなか認知されず受験生も増えず、時期尚早だったのかと悩みながら何かしなければと思っていた時に、明治大学の情報コミュニケーション学部設立のうわさを聞いて、阪井和男先生はじめ明治大学の先生をお訪ねしたのが始まりでした。

阪井先生の賢明な知見と未来を見据えた行動力のおかげで学会の序章としての 10 年がたち、高見澤秀幸先生の誠実で献身的な学会運営により、着実に第一歩を踏み出すことができました。この 15 周年は高見澤先生への感謝の周年だと思います。もちろんこの学会の特徴でもある小中高企業を含めた全会員・理事・評議員・学会誌編集委員会・事務局の皆様の、それぞれの役割が自律的にうまく回転してこの学会が支えられてきたことも忘れてはならないでしょう。ありがとうございました。

最近思うことは、本学会のような学際的な分野の学会では、他学会と研究テーマも似てしまい、これもやむを得ないことなのでしょうが、学際的な視野で他学会とも共同で研究を進めながらも、私たちは、この学会の名前である情報コミュニケーションという視点で切り口を見つけていくことが大切なのではと思っています。そうすることで、私たちがなんとなく共通理解している情報コミュニケーション学というものが、今以上に鮮明に見えだし共通理解がさらに深まるのではと思います。

私ごとなのですが、最近のプログラミング教育について、Logo を開発したシーモア・パパートが著書の中で「プログラムするという考えは、タートルに新しい言葉を教えるという比喻を通して導入される。」と述べているように、プログラミングというものを「コンピュータとのコミュニケーション」という切り口でアプローチしています。いろんな立場の人がそれぞれの専門の視点でアプローチしていくことで、プログラミング教育の展開がさらに充実したものになると考えています。

最後になりましたが、遊ぶことも真面目にする爽やかで行動力のある西端律子会長のもと、次の 20 周年に向け、情報コミュニケーション学らしきものの外観が少しでも見えてくることを祈念しております。

老兵は去るのが美学のようですが、私はそれまで元気で頑張りたいと思っています。

マンガで示した問題を解決しながら学べる まったく新しいプログラミングテキスト

事例でまなぶ

# プログラミングの基礎

2019年3月発売予定

B5判 / 112p  
定価 (本体 700円 + 税)



- ▶ マンガで示された身近な話題に対し、「こうしたい!」で問題点を洗い出し、「どうする?」でコンピューターを使って問題解決する際の処理内容を大まかに意識させ、「シナリオ化」でフローチャート作成前の段階を文章化させることで、段階的にプログラミングに必要な思考力を養えるよう工夫しました。
- ▶ 1章はプログラムの基本、2章はフローチャートの作成、3章はScratchでの簡単なプログラミング、4章はScratch/Excel VBAでのプログラミングと、ステップアップでプログラミングに必要な力を養えるよう構成しています。
- ▶ 各テーマの「キーワード」や「エッセンス」で、変数や代入、順次・選択・繰り返しの基本構造、関数定義などの解説を行い、プログラミングに必要な知識が身につきます。
- ▶ 巻末には、ScratchとExcel VBAの操作説明を付録として収録しています。
- ▶ 各テーマでは、「エンゲル係数」「最大値の探索」「割合の計算」など他教科との連携を意識した内容も収録しています。

① マンガで示された身近な話題に対し、② 「こうしたい!」で問題点を洗い出します

④ 「シナリオ化」でフローチャート作成前の段階を文章化させることで、段階的にプログラミングに必要な思考力を養えます

4章 プログラミング基礎

### 1 合計を求めるプログラムを作成しよう

① キーワード ② 初期値の決定 ③ 変数の宣言 ④ 変数の代入

1から10までの数をすべて足す計算をする場合、こんな時よくあります

$$1 + 100 + 101$$

$$2 + 99 + 102$$

$$3 + 98 + 103$$

$$\vdots$$

$$100 + 1 + 100$$

ねえねえ、この計算がなくて計算の量が多すぎて、ボウッという数字が小さいのと大きい数字の組み合わせが面倒だわ!

でもどうせなら、ある程度からまでの同じ計算ができるプログラムにしてみようよ!

ホー! プログラムをやるぞー!

この計算でプログラムできるの? やってある?

そおお、いっしょに!

⑤ こうしたい!

- 変数aから変数iまでの間にある数値の総和を行って、( ① )を求める。

⑥ どうする?

- 変数aと変数iを入力する。
- 変数sと「変数iに1を加えた値」を用いて変数sを計算する。
- ⑥の計算結果に⑥で決めた変数aに1を加えた値を足す。
- 変数iが変数iと( ② )になるまで同じように、1つずつ変数iの値に1を加えながら計算を行う。

● 合計を画面に表示する。

● ⑥の内容を画面に表示する。

### シナリオ化

① 変数aの値を入力する変数はStr、変数iの値を入力する変数はInt、変数sに1ずつ加えていく値を入力する変数はi、合計として利用する変数はTIとして使用する。変数TIに初期値の0を設定する。

② 変数aを変数Strに、変数iを変数Intに入力する。

③ 変数Strに入力された変数aからの合計を求めるため、変数iに変数Strの値を代入する。

④ 変数iが変数Intより大きくなるまで作業を繰り返す。

⑤ 変数TIに変数sを加算したものを変数TIに代入する。

⑥ 変数TIに加算する値を用意するため、変数iに1を加算する。

⑦ 合計を計算した変数TIを表示する。

### シナリオ化

変数aを1、変数iを10とした場合の例

● Scratch

● VBA

③ 「どうする?」でコンピューターを使って問題解決する際の処理内容を大まかに意識させます

Web Webからも授業サポート

- データ① プログラムデータ (Scratch/Excel VBA)  
テキスト内に掲載されているプログラムのデータです。
- データ② プログラムデータ (JavaScript)  
テキスト内に掲載されているプログラムをJavaScriptで再現したデータです。



実教出版株式会社  
<http://www.jikkyo.co.jp/>

〒102-8377 TEL 03-3238-7777  
東京都千代田区五番町 5

# 「顧客④力」の ある会社。

人を動かし、商品売り、顧客にする力。

それが、私たちの掲げる「顧客④力」。

この力を最大限発揮するため、

私たちは11の事業領域をそろえる。

それぞれが高い専門性と実施力をそなえ、共創していく。

一人でも多くの生活者に、商品を手に取り、

買い、買い続ける理由をつくるために。

これまでも、これからも、私たちはこしらえる。

顧客化行動ゼミ

博報堂プロダクツは、行動経済学で、  
人が顧客化される仕組みを解明するプロジェクト、  
“顧客化行動ゼミ”に取り組んでいます。

 **PRODUCT'S**

<http://www.h-products.co.jp/>

株式会社博報堂プロダクツ

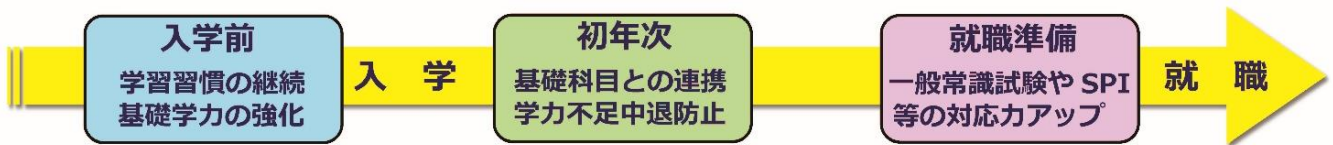
〒135-8619 東京都江東区豊洲5-6-15 NBF豊洲ガーデンフロント

Tel 03-5144-7200

# 入学前から就職対策まで

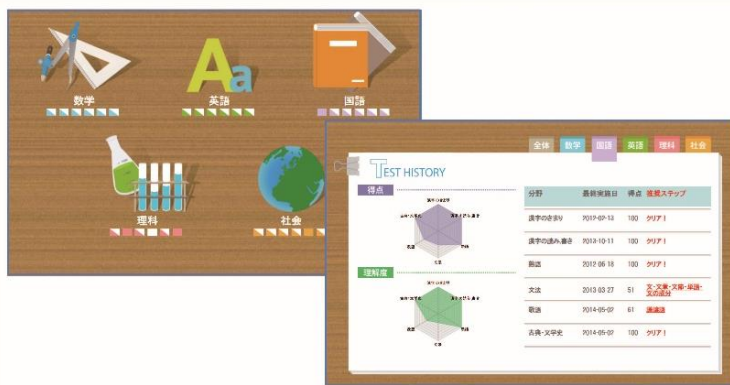
## 「基礎学力の強化」は ラインズにお任せください。

eラーニングで入学前から就職までトータルサポート！



### ラインズドリル

リメディアル教育専用 eラーニング



入学前教育から初年次教育、就職対策まで一貫して取り組める基礎学力強化のためのeラーニング教材です。

新規搭載された、「オリジナル教材作成機能」で活用の幅が大きく広がります。

看護師、管理栄養士をはじめ、各種国試対策のためのオプションもご用意しています。

### ラインズSPI

基礎から学べる SPI 対策 eラーニング



SPIの各分野の模擬テスト14回分、演習問題1,500問、全分野の解説教材を収録。

更に、非言語のSPI解説教材は、関連する数学の基礎教材と連動し、不得意分野の基礎に立ち返ってSPI対策ができます

テストセンター、WEBテストにも対応。「玉手箱」「TG-WEB」の教材も新たに収録。



## 情報コミュニケーション学会 会員募集のお知らせ

情報コミュニケーション学会（Japan Association for Communication Information and Society）は情報通信ネットワークやコンピュータなどにより高度に情報化された社会におけるコミュニケーションについて学際的に研究することを目的とし平成16年2月28日に設立されました。本学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されています。学会員になると、論文誌への投稿ができるようになるなどの特典があります。ご入会お待ちしております。

### 情報コミュニケーション学会 設立趣意書

近年、世界的な規模でのグローバル化・情報化は、私たちの社会生活やライフスタイルに大きな変化を与えています。高度に発達した情報環境の中で、時間や距離を超え、さまざまな人種、文化、宗教、価値観などをもった人々が共存する豊かな共生社会の創造が望まれます。このような中、「情報コミュニケーション学会」は、情報通信ネットワークやコンピュータなどにより高度に情報化された社会におけるコミュニケーションについて、学際的に研究することを目的としております。コミュニケーションは、人と人、人と集団、集団と集団の間で生まれます。そこでの情報機器を介したコミュニケーションの働きや社会的役割、問題点などを解きほぐし、情報の収集・処理・発信・伝達など目的を持った主体的なコミュニケーションについても、研究していきたいと考えています。これらの取り組みにより、情報コミュニケーションという概念が、ひとつの新しい分野として確立できることを願っています。また、教育の現場においては、小学校からさまざまな場面でコンピュータが活用され、高等学校では情報を体系的に学ぶために教科情報が設置・実施されるようになりました。学校では先生方の熱心な取り組みにより、試行錯誤を繰り返しながら、悩みながら、問題を一つひとつ解決しているのが実情です。そこで、本学会は、情報コミュニケーションに関心のある小学校・中学校・高等学校・大学の教員が中心となり、情報交換・交流の場としての役割を果たし、実践的な研究をとおしてよい教育をおこなうための原動力になることも願っています。情報コミュニケーション学会については、平成15年2月8日、80名の賛同者を得て設立準備会を実施し、平成16年2月28日の設立総会で正式に発足の運びとなりました。情報コミュニケーション学会設立の趣旨に賛同いただき、多くの皆様にご入会いただきますようお願い申し上げます。

入会申込書ダウンロード URL

<http://www.cis.gr.jp/nyuukai.html>

参考：2019年度の会費等 入会金 1,000円

年会費（正会員） 7,000円（但し、幼・小・中・高校教員および教育委員会などの関係者は特別割引制度適応で3,000円）

年会費（学生会員：学部学生）1,000円

情報コミュニケーション学会  
第16回全国大会実行委員会・15周年記念行事実行委員会

大会実行委員長

- 阪井和男（明治大学）

15周年記念行事実行委員長

- 高見澤秀幸（一橋大学）

大会副実行委員長

- 友野典男（明治大学）

大会実施責任者

- 西端律子（畿央大学・学会会長）

大会実行委員・大会実施副責任者

- 栗山 健（学研ホールディングス・学会副会長）
- 佐藤万寿美（兵庫県立伊丹北高等学校・学会副会長）

大会実行委員

- 庄司一也（帝京平成大学）
- 寺尾 敦（青山学院大学）
- 永井克昇（千葉商科大学）
- 杉田このみ（千葉商科大学）
- 新谷剛史（株式会社セカンドファクトリー）
- 有賀三夏（東北芸術工科大学）
- 小田良次（実教出版株式会社）
- 大和田政弘（釜石市立釜石東中学校）
- 後藤 晶（多摩大学）
- 永谷研一（株式会社ネットマン）
- 村井明日香（桜美林大学）
- 山路 進（江戸川大学）
- 大岩幸太郎（明治大学）

事務局

- 鴨谷真知子（Cross Media +Design）

ご広告掲載企業の皆さま（五十音順）

実教出版株式会社  
株式会社博報堂プロダクツ  
ライNZ株式会社

ご出展企業さま

ライNZ株式会社

情報コミュニケーション学会 第16回全国大会プログラム

発行日：2019年2月23日

発行者：情報コミュニケーション学会

事務局：〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1

園田学園女子大学 情報教育センター

E-mail：cis@sonoda-u.ac.jp

URL：http://www.cis.gr.jp/

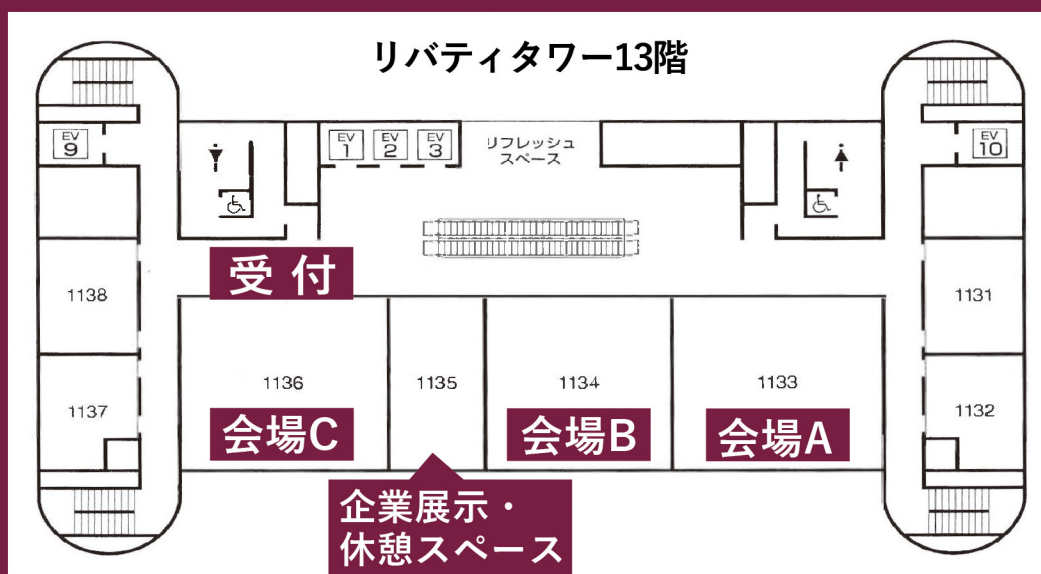


# 会場案内

明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー13階  
(東京都千代田区神田駿河台1-1)



中央線 御茶ノ水駅 御茶ノ水橋口 徒歩約5分  
東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 徒歩約5分  
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 B3b出口 徒歩約5分  
都営地下鉄三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A5出口 徒歩約5分



情報コミュニケーション学会  
会員募集中

